

# 東大の読解問題が教えてくれる 英文読解の基本論理

**前**章までは、主として下線部和訳の問題を用い、英文を構成する知識——いわば文法や構文の知識——の正確な理解度・運用能力のチェックを行ってきたわけですが、この章では空所補充問題や説明問題などの設問の付された英文を用いることで、英文の「読解論理」の重要性を学んでいただくことを主眼とします。

東大の入試問題では、単なる単語や文法知識の多寡ではなく、その運用能力が試されます。ここでいう「読解論理」とは、いうなれば、「語」と「語」をつなぐルールが「文法」であるのに対し、

「文」と「文」、あるいは、「パラグラフ」と「パラグラフ」を結ぶルール  
＝「読解論理」

であると考えてください。

※ なお、「読解論理」に必須の知識として Discourse Marker (談話標識) と呼ばれるものがありますが、これは p.152 のコラムにまとめてありますので、あわせて参照していただければと思います。